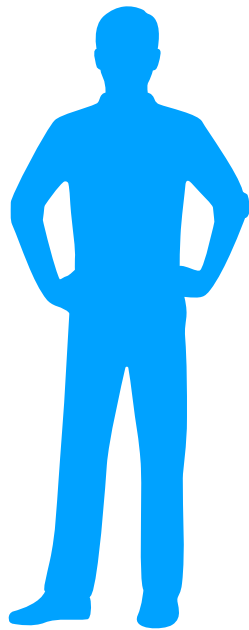


日時 Date and time	11月1日 8:30- 10:50- 13:20- 各50分
タイトル Title	中学生用 鑑賞プログラム
場所 Location	東京大学附属中学校
参加者 Participant	40人
鑑賞作品 Art works	モネ「ラ・ジャポネーズ」 https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A9%E3%83%BB%E3%82%B8%E3%83%A3%E3%83%9D%E3%83%8D%E3%83%BC%E3%82%BA

準備物：

- ・ワークシート A4 （授業前に配布）
- ・資料シート A4 （授業後半に配布）
- ・鑑賞作品画像（データ）①のみ
（生徒は各自タブレットに画像データを事前にダウンロード。佐藤は拡大印刷画像を持参）



②のグループの絵↓



	黄帯部分はマグネットシートを制作し、黒板に貼って進行	時間	経過
概要 Overview	あいさつと、プログラムの全体の流れを説明。 初めまして。佐藤悠と言います。 今日は「絵を見ることをきっかけに、考えを深める」ということをやってみたいと思います。 美術館行ったことある？絵って見ますか？興味ある人はそんなにいないと思います。ただ、多分みんなでもよく知ってる絵はある。 （②の絵のグループを見せる。）どこで、みたことある絵でしょうか？ 社会の教科書・資料集とか＝社会科は、美術以外で一番美術に触れる授業。 どうして社会の授業で、美術作品を扱うのか？ 当時の分かりやすい資料として。肖像画、ある出来事の場面、文化として。 もちろん資料の意味は大きいけれど、当時描いた人はそれを想定して制作したわけではない。「表現」＝何かを表すために作られたもの。 今日は社会の授業なので、もちろん歴史にも触れますが、 表現＝何を表したかったんだろう？ということも一緒に考えながら、 「絵を見ることをきっかけに、考えを深める」ということを行います。 その中で、絵をどうやって見たらいいのか？というヒントも共有できればと思っています。絵の見方に基本正解はないのですが、「自由に見て感じなさい！」と言われても困る人もいると思うので、今日の方法で、ちょっと、美術鑑賞の入り口も伝わればと思います。 今日のテーマ「違和感で絵を見る方法＝違和鑑賞」 今回は「違和感」をキーワードに絵を見てもらいます。 要するに「絵の変なところ、妙なところ」ですね。 そこに注目して、絵を見る方法に挑戦します。 前もってデータを送った①の絵の中から違和感を発見してもらいます。 個々で違和感を発見した後、4人組になって、発見した違和感を共有します。 そして、どんな違和感があったかを、各グループで発表してもらいます。 なぜそう描いたのか？という「問い」をこの教室全体で考えていきながら、 最後に絵が描かれた背景や、前後の歴史について触れていければと思います。 「絵の見方には答えが無い」。…と言ってしまうと、作品に対して何も考えなくて良い、と取られてしまうので、そうではなく、今日は「絵の見方にはたくさんの答えがある」と伝えておきます。こうだからこうらしいという説は一応ありますが、それも誰かの一つの見方に過ぎません。ここからの授業で、皆さんなりの答えの出し方＝自分の解釈が見つかれば良いなと思っています。	5	5

違和鑑賞	絵①を見ます。（出力した絵を黒板に広げる。） タブレットで絵を見てください。拡大、縮小の操作確認をしつつ、まず30秒、ざっと絵を見て、さっき言った「違和感」を探してもらいます。これは練習で、当てたりしませんので安心して取り組んでください。 30秒の鑑賞 どうでしたか？違和感見つかりました？ 絵は現実を見たまま描く方法もありますが、多くの場合、ある意味や、メッセージを伝えるために、演出されたり、加工されたりして、現実が表されます。スマホカメラの加工アプリのようなものでしょうか。 皆さんも、自撮りする時に顔を加工してよく見せたり、風景や食事を撮る時に、必要なものを足したり、いらないものを引いたり、演出を自然にしますよね。そんな感覚かもしれません。 例えば・・・ナポレオンのこの絵（②の中の1枚） 一見、見慣れた、なんでもない絵に見えますが・・・例えば、風でなびいてる厚めのマントとか、馬の尻尾とか、ここ、どんだけすごい風なんだよとか、帽子飛ばないのかなとか思いませんか？ 左下の岩に「ボナパルト」と文字が彫ってありますが、いつ彫ったの？とか、そもそもこんな山を馬で越せるの？みたいな、ツッコミどころはいっぱいあるわけです。 そんな違和感から、もしかしたらこの絵は、ナポレオンをかつこよく見せるために、いろいろ加工してあるんじゃないかなと見えてきたりします。 これは別に答えとかじゃなくて、僕の勝手に思ったツッコミなので、これが正解とか思わないでくださいね。見当違いのことを言ってるかもしれません。 でも、今日はそれはOKです。勘違い大歓迎。 今日の目的である、絵を見て、考えを深めるには、まずそのきっかけになるものがなくて、それは勘違いでも構いません。あなたが実際にそう思ったなら、そのことがとても重要です。みなさんも勘違いを恐れず、勝手にたくさんツッコミを入れてください。 そんなふうに、「あれ？よく考えると変かも・・・」という感じで、もう一度①の絵を見てみて下さい。 今から3分時間を取るので、今度は最低5つ「違和感」をワークシートに書き出してください。後ほどその内容はグループで共有してもらいます。さっきも言ったように、勘違い大歓迎ですから、むしろより大きな勘違いするくらいの気持ちでいいと思います。 3分の鑑賞	8	13
-------------	--	----------	-----------

グループ共有	どうだったでしょうか？いろいろ違和感ありましたか？ では、4人グループになって、お互いの違和感を共有してください。 他の人が気づいた面白い違和感は、ワークシートにメモを取っておいてください。 後でランダムに当てて、グループ内の違和感でどんなものがあったのかを 発表してもらおうので、どの意見を発表しようかなというの、考えておいてくださ いね。 共有時間：5～7分くらい	10	23
全体共有 違和感の理 由を想像す る	他の人も同じこと思っていたり、逆に全然違うこと思ったり、割合面白かったんじ ゃないかなと思います。こうやって絵を誰かと見てワイワイ話すのも、結構楽しか ったりします。 では、グループでどんな違和感があったか、聞いてみましょう。指名された人は見 つけた違和感を話してください。話してもらうのは、自分の見つけたものでも、 他の人が見つけて面白かった違和感でも良いです。1グループ2～3個目安に、違 和感を教えてください。 3～4グループと、10～12分程度やり取りを行う。 *学生の発話内容に対し、さらに、その違和感の理由、なぜそう描いたのかの理 由って想像できますか？と問いかけ、違和感の理由を想像してもらう。問いかけて いる側（佐藤）も、別に答えを知っているわけではなく、どう考えるのか興味があ るから聞いているというスタンスを伝える。 *学生の発話の深度に応じて、多少絵の情報も伝える。でも答え合わせではない。 たくさんの違和感に気づいたもらいましたし、さらに踏み込んで「なぜ？～なの か？」ともう一歩考えを進めてみました。ここまでできると、また絵を見るのがち よっと楽しくなると思います。 重要なのは、「自分はとにかくこう感じた」という、作品に対して自分の解釈を持 つということです。 そういう自分の解釈や考えを持った上で、今から話すような絵の解説を聞くと、ま たいろいろ発見があると思います。	15	38

解説	今回鑑賞した作品が描かれた背景と、日本文化の海外への影響「ジャポニスム」についてお話しします。 *プリントを配布 ジャポニスムは、19世紀後半に欧米で起こった日本美術ブーム・日本趣味のことです。1850年代に日本は開国し、日本の美術品・工芸品が欧米に大量に広まり、その結果、大・日本ブームが起こります。そして、とにかく日本の品々を画面に入れる絵がたくさん描かれます。ゴッホの「タンギー爺さん」 マネ「エミールゾラの肖像」どちらも、浮世絵や屏風が画面に取り入れられています。 とにかく日本のものを絵の中に並べようとした時代（シーズン1）のあと、その表現の良さはどこにあるんだ？と研究が始まります。有名なのは、ゴッホによる浮世絵の模写です。自分で真似して描いて、良さを取り入れようとした跡が見えます。 日本の美術の特徴（浮世絵）の特徴が何かというと・・・例えば歌川広重「亀戸梅屋敷」・特殊な遠近感・大胆な構図と色使い・輪郭がある・自然も絵の主役OK（人間中心じゃない）などがあります。 そして、そんな日本の美術の特徴と、それまでのヨーロッパの美術の特徴を合体させた表現が生まれます。（シーズン2）今日鑑賞した作品の作者のモネで言えば、こんな感じの絵ですね。モネ「柳のある明るい朝」 大胆な樹の切り取りかた、遠近感の感じにくい背景、屏風のような横長画面、自然が主役な部分が、影響があった部分のようです。 このような日本ブームをきっかけに、欧米に与えた影響全体を指して「ジャポニスム」と言います。シーズン1はわかりやすく日本のものを取り入れる、シーズン2は表現が融合しているので、一眼見ただけでは日本の影響は感じられないというのが特徴です。 今日見た作品の題名は「ラ・ジャポネーズ」フランス語で日本人女性という意味で、 絵もフランスで描かれたものなのですが、たくさんの日本の要素がありました。日本的なもので溢れかえっているのがこの絵です。ということで、描かれたのはシーズン1の時期ということですね。 女性は、モネの妻のカミーユさんで、日本人のコスプレをしています。実は彼女の髪の毛は実際は黒髪なのですが、絵の中では金髪のカツラをかぶっています。あと実は、持っている扇子の配色がフランス国旗の色になっています。 「ラ・ジャポネーズ」は、一見日本のもので溢れてるんですが、かつらや扇子で、あえてフランスっぽさも演出されてると言われています。 ここをどう解釈するのも、みなさん次第。日本文化に負けないぞ！という意気込みなのかもしれないし、その後の文化の合体を意味しているのかもしれないし、絵の買い手に対するサービスとして自国の要素を描いたのかもしれない。 本にもこのような解説がいろいろ書いてありますが、どの説を推すかはみなさん次第です。自分の鑑賞した気持ちを大事にしながら、みなさん自身の解釈ができることを楽しみにしています。	6	44
----	---	---	----

まとめ	今回はまず何の解説も無しに「違和感」をキーワードに鑑賞してもらいました。 最初に自分の目でよく見て、勘違いでもいいので、何かしら「こう思った」という自分の解釈があると、今のような他の人の解釈も面白く聞けると思います。そうだったんだ！と新たな発見があったり、自分はこう思うけどな・・・と、反論も生まれてくるかもしれません。 また、最初に言ったように、解説に正しいことが書いてあるわけではなく、解説を読むことは、自分の鑑賞の答え合わせではありません。解説と全然違うことを考えていたとしても、「ではなぜ自分はそう思ったのか？」と自分の解釈の視点や傾向について考えることが、考えを深める上でとても大事になります。 自分はこんなふうに考える傾向があるから・・・この解釈は読みやすそうだorあえて逆のことを言っている説を読んでみようetc 解説には、解説を書いた人の解釈や判断が書いてあるだけなので、どれを「推すか」というのは、みなさん次第です。そしてその根拠になるのが、まず自分の目で作品を見ること。そして考えること。「こう思う」という自分の解釈を持つことです。 これは美術だけでなく、他の科目や日常生活の中でも同じことが言えそうです。まず、よく見て自分の解釈を持った上で、資料を読んだり、人の話を聞いたりして考えを深める・・・ そういった練習として、今日は美術作品を使って練習をしてみました。何度も言いますが、絵の見方にはたくさんの答えがあるので、さまざまな解釈が許容されます。それを利用して、自分の解釈をもって、考えを深める、資料に向き合うということを練習したのが今回の授業でした、 どうもありがとうございました。	3	47
全体の振り返りや感想	ワークシートに今日印象に残ったこと、気づいたことなどを描いてもらう：3分	3	50

①絵から感じる、「違和感」を書き出してください。



②他の人の「違和感」を聞いて、面白かったものを書き出してください。

③今日の授業の中で、印象に残ったこと、気づいたことについて、まとめてください。

ジャポニスムとは？

19世紀後半に欧米で起こった日本美術ブーム・日本趣味。開国により、日本の美術品・工芸品が欧米に大量に広まり、日本ブームが起る。

→日本の品々をたくさん画面に入れた絵が描かれる。

①：ゴッホ「タンギー爺さん」

②：マネ「エミール・ゾラの肖像」

その後、ただ日本品を画面に取り入れるだけでなく、日本美術の研究が始まる。

③：歌川広重「亀戸梅屋敷」

④：ゴッホによる模写

日本美術の特徴＝

・特殊な遠近感・大胆な構図と色使い

・輪郭線・人間中心の表現ではない＝自然も主役

その結果、

西洋美術と日本美術、双方の表現が融合した表現が生まれる。

⑤：マネ「柳のある明るい朝」

*大胆な樹の切り取り方、遠近感の特殊な背景、自然が主役、屏風のように横に長い



⑥：マネ「ラ・ジャポネーズ」

- ・日本の品々に溢れる。
- ・モデルは妻のカミーユ。
- ・扇子にフランス国旗の配色。
- ・金髪のカツラをつけている。
- ・作者本人はこの作品を「がらくた・骨董品」と話していたらしい。

